

令和元年度「地域創生人材育成プロジェクト」指定校

高校生ガイドによるスタディツアー及びキャリアノート開発の取組  
～瀬戸内町を日本スイーツの聖地へ～



## 1 学校の概要

### (1) 学校の沿革

本校は、奄美大島南部に位置する唯一の県立普通科高等学校であり、令和2年度に創立90周年を迎える。昭和45年度まで水産科，昭和52年度まで家政科が設置されていた。平成22年度から，個に応じた科目選択に対応するため，2，3学年次は2コース制（進学コース，情報ビジネスコース）を採用している。

### (2) 学校の現況

令和元年度は全校生徒が96人。地域の最高学府として地域と共に歩み地域に支えられ、『ひとりひとりが主役』をスローガンに掲げ，躍進してきた。令和元年度から瀬戸内町が「紫雲寮」の運営を開始し，島外留学生8人を受け入れた。

## 2 事業の概要

### (1) 地域の特色及び課題

離島地域の瀬戸内町は，夏季はダイビング等，自然を生かした観光資源が充実しているが，冬季の観光商品は少ない。しかし，瀬戸内町が有している白糖製造工場跡や奄美大島要塞に関する戦跡などの近代遺跡群は，日本の近代史を網羅することのできる極めて文化的価値の高い文化遺産である。そこで，近代遺跡を観光資源として活用することが求められているが，観光ガイドが不足している。

### (2) 事業のねらい

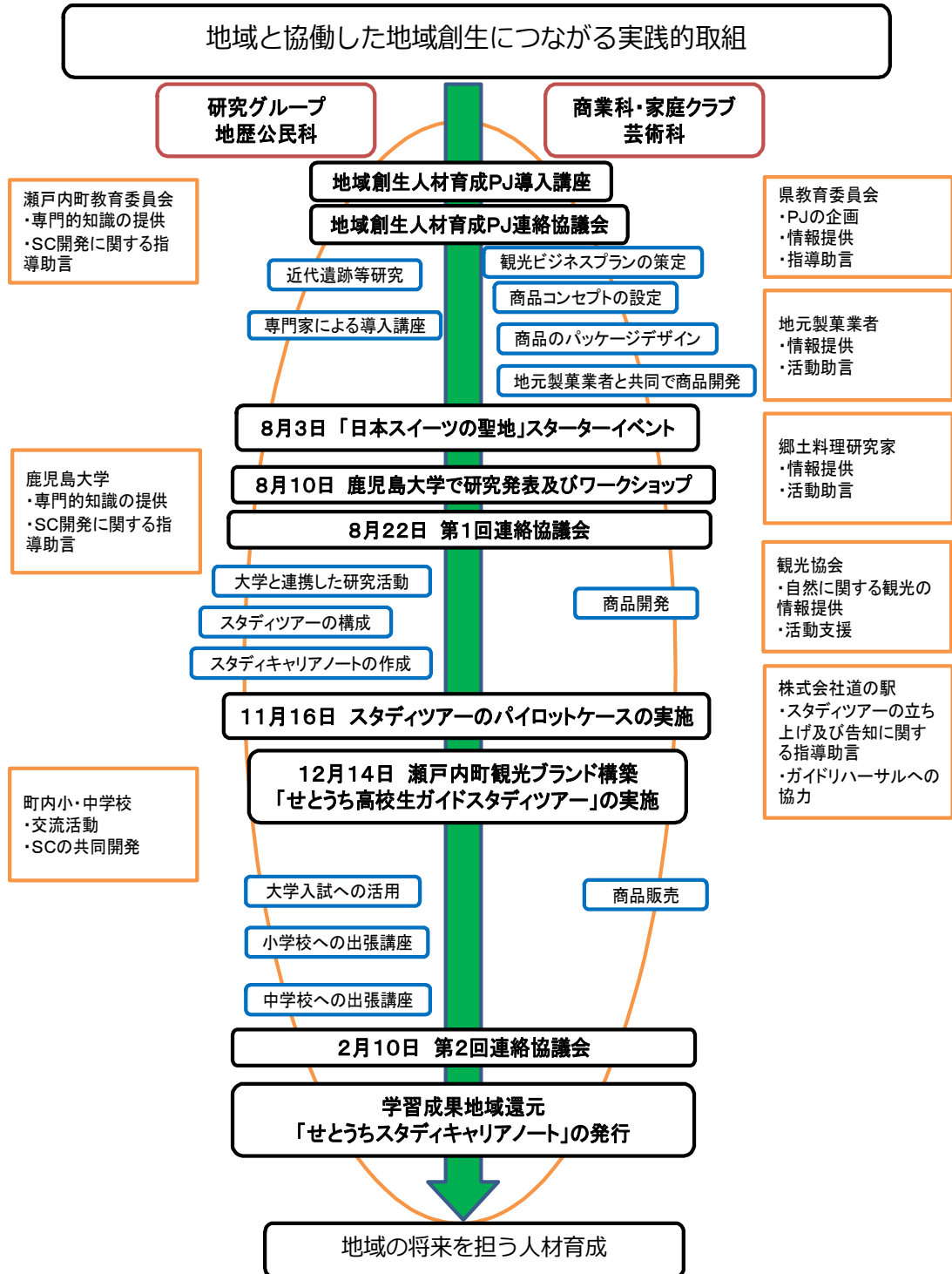
#### ア 育成する人材像

近代遺跡ガイドを目標に，他者と関わりながら活動を通して，自己のキャリアの出発点である郷土についての教養を深め，自らの考えを発信できる人材の育成を目指す。

#### イ 期待される成果

生徒が大学や専門家と連携しながらリサーチを行い，課題を明らかにした上で，主体的にスタディツアーや関連商品を開発する。これらの経験を通じて生徒の課題解決能力が育成され，更には，スタディキャリアノートを開発したり，活動の成果を研究発表や出前授業に生かしたりすることを通じて，生徒の郷土に対する思いが深まるばかりでなく，キャリア形成に好影響を及ぼすことが期待できる。

ウ 研究・取組のイメージ図



※ P J : プロジェクト S C : スタディキャリアノート

### 3 事業の経過

日	内 容	参加者
5 月		
15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒連絡協議会</li> <li>昨年度の研究を振り返り，今年度の活動について協議し，大まかな計画を立てた。</li> </ul>	研究グループ 3年情報コース
6 月		
7 日 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高連絡会において研究発表</li> <li>昨年度の研究内容及び，地域創生人材育成プロジェクトとしての活動計画を発表し，協力を要請した。</li> <li>近代遺跡導入講座</li> <li>指導：埋蔵文化財センター 鼎丈太郎学芸員</li> <li>スタディツアーの内容を検討するべく，各団体の代表者が実際に近代遺跡を巡検し，知識を深めた。</li> </ul>	研究グループ  研究グループ 家庭クラブ 3年情報コース
7 月		
5 日 5, 8, 12 日 8 日 13, 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いてのスターターイベント開発協議</li> <li>指導：埋蔵文化財センター 鼎丈太郎学芸員</li> <li>外部講師を招いての商品開発講座</li> <li>指導：大城もち屋 栄克人氏</li> <li>講演会及びワークショップ，巡検の実施</li> <li>講師：株式会社宙の駅 本田静氏</li> <li>郷土料理・菓子研究講座</li> <li>講師：花立弘子氏</li> <li>学校フラッグ，バナーの開発</li> <li>記念スタンプの開発</li> </ul>	研究グループ， 3年情報コース 3年情報コース  研究グループ  家庭クラブ  3年情報コース 書道選択者
8 月		
1 日 3 日 10 日 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前授業（瀬戸内町立篠川小中学校）の実施</li> <li>「日本スイーツの聖地」スターターイベント開催</li> <li>鹿児島大学との合同ワークショップ開催</li> <li>第1回連絡協議会の開催</li> </ul>	研究グループ 全員 研究グループ 研究グループ
9 月		
15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島大学との協議会</li> </ul>	研究グループ
11 月		
2 日 12 日 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭において「日本スイーツの聖地」ブースを設置し，郷土菓子アレンジ商品を販売</li> <li>県議会文教警察委員会行政視察において研究発表</li> <li>「日本スイーツの聖地」スタディツアー試行版の</li> </ul>	3年情報コース 研究グループ 全員 家庭クラブ

	実施 ・家庭クラブ県大会において研究発表	
12月		
14日	・「日本スイーツの聖地」スタディツアーの実施	全員
1月		
11日	・近代遺跡研修講座実施 指導：埋蔵文化財センター 鼎丈太郎氏	研究グループ
2月		
10日	・第2回連絡協議会の開催	研究グループ
27日	・出前講座（古仁屋中学校職員研修）の実施	研究グループ
3月		
	・スタディキャリアノートの完成	研究グループ

#### 4 事業の内容

##### (1) 昨年度までの経緯

一昨年度，地歴選択者の一部生徒が瀬戸内町の近代遺跡について研究活動を始め，戦争経験者の聞き取り調査などを行った。聞き取り調査の様子は，DVDに記録して埋蔵文化財センターに提供した。昨年度は，埋蔵文化財センターでインターンシップを行った生徒が白糖工場跡に関心を持ち，復元模型の製作と小学生向けの小規模なスタディツアーを実施し，研究活動を「明治維新150周年記念プロジェクト維新未来博」で発表したところ，最優秀賞を受賞した。復元模型は瀬戸内町に寄付し，せとうち海の駅に展示されている。一連の研究活動については，田中完前大島支庁企画部長に助言を頂き（図1），模型製作は大山良一前本校校長（専門：工業）の指導を頂いた（図2）。



図1 中央が田中完さん



図2 模型製作の様子

##### (2) 生徒連絡協議会（5月15日）

本校の「地域創生人材育成プロジェクト」は，基本的に教育課程内でも，部活動としても進行する事ができない。有志の研究グループ，3年情報コース選択者，家庭クラブ員，書道選択者等が混然一体となっていくため，生徒の連絡協議会が不可欠である。第1回では，昨年度までの近代遺跡研究を振り返り，今年度は白糖工場跡に主眼をおいたプロジェクトとするという考えを共有し（図3），それぞれの団体で役割を確認した（図4）。



図3 キャラクターの設定



図4 生徒連絡協議会の様子

(3) 近代遺跡巡検（6月16日）

瀬戸内町埋蔵文化財センターの鼎丈太郎学芸員の指導の下、近代遺跡について調査を行った。西古見砲台跡では歩きづらい道やハブなどのリスクを、白糖工場跡については、全て埋まっていて見えない現状などを確認した。それらをスタディツアーやイベントにどのように生かせるかを課題として設定し、考察した。

調査場所：西古見観測所跡，西古見砲台跡（図5），久慈白糖工場跡，佐世保海軍軍需部大島司庫水溜跡，手安弾薬庫跡（図6）



図5 西古見砲台跡



図6 手安弾薬庫跡

(4) スターターイベント開発協議（7月5日）

7月5日，鼎学芸員の指導の下，スターターイベントの具体的な構成について協議した（図7）。古仁屋市街全域に点在する近代遺跡を舞台に，クイズラリーを展開する計画であったが，交通安全等を考慮して範囲をせとうち海の駅周辺に制限し，安全面を確保した上で内容の充実を図ることにした。



図7 スターターイベント開発協議

(5) 3年情報ビジネスコース選択者・商品開発研究（7月）

3年生の情報ビジネスコース選択者が、観光ビジネスプランの一環として商品開発をすることにし、7月から町内の製菓業者と連携した。郷土菓子の現状について調べ（図8）、新しい郷土菓子の開発を目指したが、既に完成している郷土菓子を組み合わせるなどの工夫は困難を極め（図9）、郷土菓子に関心のない若年層へアピールできるようなパッケージの工夫をするなどの開発を行った。



図8 製菓業者への聞き取り調査



図9 郷土菓子の組み合わせ

(6) 専門家による講演会・ワークショップ・巡検（7月8日）

着地型観光において多くの実績をもつ株式会社宙の駅代表取締役の本田静氏を講師に招き、講演会（図10）を実施した。近年の旅行者のニーズが、体験型の観光を通じて、文化や社会性を自分の中に取り込むという形に変わってきている現状を教えて頂き、本校のスタディツアー等の取組は、そのようなニーズに応えているだけでなく、地域への貢献度や、郷土について学ぶキャリア学習としても、非常にレベルの高い取組であるとの評価を頂いた。講演会の後、3年情報ビジネスコース選択者と共にワークショップを実施し、スターターイベントの内容や告知について意見交換した。続いて、研究グループと共に巡検（図11）を行い、スタディツアーの内容についてのアドバイスを頂いた。



図10 講演会の様子



図11 巡検の様子

(7) 郷土菓子研究講座（7月13, 14, 30日）

これまでの協議を通じて、郷土菓子については、町内の若年層を対象に啓発する必要があると考え、スターターイベントで家庭クラブが郷土菓子

の体験ブースを設置することになった。そこで、家庭クラブは、「郷土菓子体験」に加え、観光客に対する「おもてなしスペース」にもなるブースを創り出せるよう、郷土料理研究家の花立弘子さんを招き、郷土菓子製作（図12）と呈茶（図13）の研究講座を実施した。様々な郷土菓子について教えて頂く中で、型を用いて作ることで白糖をより身近に感じられる落雁（図14）に着目し、イベントに導入することにした。



図12 郷土菓子製作



図13 呈茶の研究講座



図14 落雁の型

(8) 瀬戸内町立篠川小中学校における出前授業（8月1日）

町内小中学校への出前授業は、今回が古仁屋中学校，阿木名小中学校に続いて3回目である。白糖工場の歴史，これまでの研究活動，スタディツアーについて授業を行った（図15）。受講した小中学生からは、「聞いたことはあったが，重要なものだと知りびっくりした。聞く前より興味がわいたので，機会があれば行ってみたい」などの感想（図16）を得られた。



図15 出前授業の様子

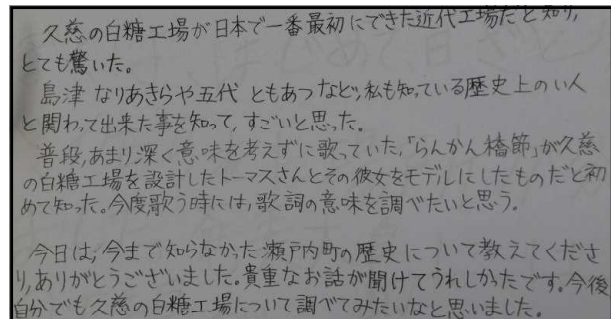


図16 生徒の感想

(9) 「日本スイーツの聖地」スターターイベント（8月3日）

上半期の集大成として，せとうち海の駅でスターターイベントを開催した。企画から告知まで全て古仁屋高校生が行った（図17）。海の駅周辺を活用したクイズラリーで白糖工場について学び（図18），自作のパッケージを施した郷土菓子を販売し（図19, 20），落雁と呈茶の体験活動をしてもらい（図21），この日に合わせて開発したバナー，フラッグも披露した（図22）。多数の小学生と保護者，観光客に好評であった。





図17 告知のちらし



図18 クイズラリーの様子



図19 自作のパッケージ



図20 郷土菓子販売の様子



図21 落雁体験の様子



図22 バナーを設置した販売ブース

(10) 古仁屋高校・鹿児島大学合同ワークショップ（8月10日）

かねてより本校の研究活動に注目していた鹿児島大学と、合同ワークショップ「近現代文化遺産を用いて地域を活性化する：高大生が考える地域の未来」を開催した。ワークショップでは、近現代に焦点を当て、地元の魅力を掘り起こし、広く発信するために高校生や大学生ができることについて議論した。はじめに本校生徒が研究活動報告を行い（図23）、続いて「“わたしたちの歴史”の魅力を伝えるにはどうしたらよいか？」というテーマでワークショップを行った。考古学ゼミ・文化人類学ゼミ、社会科教育ゼミなどの多くの学生が参加し、グループに分かれて話し合った（図24）。多くの実績を積み重ねている本校生と、各専門分野ならではの視点や知識をもつ大学生がお互いに意見を活発に出し、ポスターセッションを行った（図25）。



図23 報告の様子



図24 グループ別での話し合い

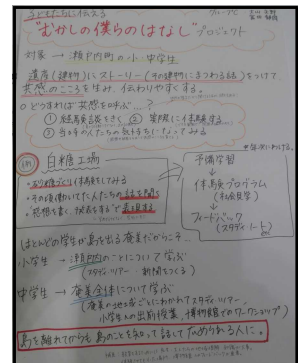


図25 ポスターセッション

#### (11) スタディツアー試行版の実施

スタディツアーは、高校生ガイドに扮した本校生が、小学生に対して、古仁屋から白糖工場跡がある久慈までの40分間バスの中で説明し、クイズラリーを通じて久慈集落を案内し、最後は公民館で復元模型について解説をするというものである。ツアーの質を高めるため、株式会社宙の駅の本田静氏、ツアーガイドの富永誠吾氏、埋蔵文化財センターの鼎丈太郎学芸員、地域おこし協力隊の伊藤香苗氏、鹿児島大学の兼城糸絵氏、石田智子氏、佐藤宏之氏、中谷純江氏に同行してもらい、スタディツアーの試行を実施した。いただいたアドバイスとしては、「イベントにもっとメリハリがつくような工夫が必要」「久慈集落そのものについて体験できるような工夫を」などがあつた。また、ツアーガイドの基本的な部分（交通安全の確保など）についても、細かい指導をしていただいた。

#### (12) スタディツアーの開催

12月14日（土）、「日本スイーツの聖地」と題し、スタディツアーを久慈白糖工場跡にて開催した。町内小中学校に案内文を送るなどの告知を行ったが、なかなか参加者が集まらなかった。しかし、それを知った町の社会教育課の脇田久美さんが放課後子供教室を通して呼び掛けてくださり、最終的に44人の小学生と保護者の参加を頂いた（**図26**）。試行版での反省を踏まえ、バス移動中に退屈させないための工夫をしたり、現地でのクイズやオリエンテーリングにも工夫をしたりして準備を行った。例えば、白糖工場跡では、メジャーを使って工場の煙突の高さ（36m）を体感させてから復元模型を用いた解説を行ったり（**図27**）、集落内のオリエンテーリングを兼ねた宝探しをさせたり（**図28**）するなどである。また、各ポイントでクイズに解答し、スタンプを集めながら（**図29**）白糖工場にまつわる歴史を学び、学んだ内容を書き込めるスタディノートを活用した。（**図30**）。帰りのバス内ではビンゴゲームを通して学んだ内容を復習できるようにした。参加した小学生からは、事後アンケートを通じて、「こんなにすごい工場が、奄美に四つもあつたなんて知らなかった。」、「クイズやパズルなどで、楽しく勉強することができてよかった。」などの感想が上がつた。また、保護者からも高校生が地域の文化遺産を郷土教育に活用しようとする姿勢を高く評価して頂いた。イベントに季節感を出すために、クリスマスイベントとして実施し、帰り際には、本校生徒のデザインや大島紬の端切れを用いた缶バッジ（**図31**）と、工場に使われていた日本レンガを模した郷土菓子（ふくれがし）（**図32**）をクリスマスプレゼントとして配布し、好評を博した。



図26 参加者全員で記念撮影



図27 復元模型を用いた解説



図28 オリエンテーリングの様子



図29 スタンプ



ちこくわしく、せつめいするよ！

- ・白とうエしようをつくる準備をした人は、五代友厚とオランダの [ ] です。
- ・アイルランドの [ ] が、グラバーにたのまれてあまみ大島までやってきました。
- ・名瀬にはウォートルスたち外国人のために住まいがたてられて、 [ ] とよばれました。
- ・ウォートルスは、白とう作りのきかいの使い方や、工場のたてものの作り方を教えました。
- ・ウォートルスは、外国から輸入したレンガと、日本人の手の大きさに合わせて新たに作ったレンガを使いました。これは、日本でさいしょに作られたレンガと言われています。
- ・ウォートルスは、おせわをしてくれた女の人のましゅとおわかれしなくてはならなくなり、ましゅは大へんかなしました。そのお話は島唄になり、 [ ] と呼ばれています。
- ・島唄は、あまみ大島のせいかつなどをうたにしたものでしもうたの「しま」は [ ] というみです。

6



それぞれのエしようと、しっしんの島の名勢をさがして、なまえをがごころう！




7

図30 スタディノート（一部）



図31 参加した小学生にプレゼントしたバッジ



図32 白糖石（左）とレンガを模した郷土菓子

(13) 近代遺跡海上ツアー巡検

1月11日（土）大島海峡の近代遺跡をクルージングで巡る研修講座を実施した。ホエールウォッチングと近代遺跡巡りを組み合わせて、冬の観光モデルとして地域に提案するのが目的である。「クジラに会えないこともある」「天候に左右される」「船酔い」などのリスクを踏まえて巡検を実施したが、クジラに会えず、雨と寒さに見舞われ、船酔いも体験し、いわゆる厳しい状況の中でのサンプルを得られた。結果的に、天候が厳しい状況であっても大島海峡独特のロケーション（図33）は抜群で、海上から見える近代遺跡も、知的刺激にあふれており、外部からの観光客を満足させられるものと思われた。今回のサンプル（図34）を踏まえて、高校生らしい大島海峡冬季観光プランを作成していく予定である。



図33 戦跡が残る一枚岩「赤瀬」

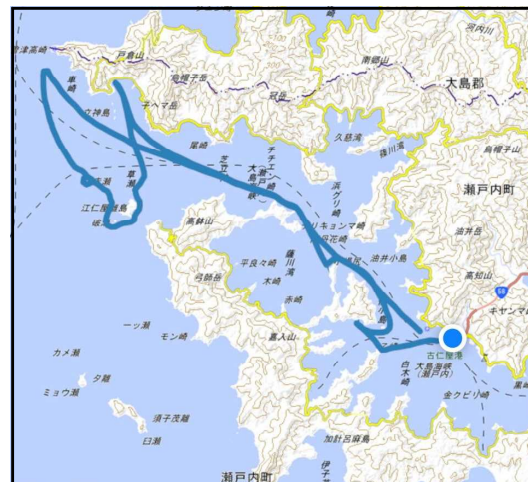


図34 今回のルート

## 5 事業の成果とその評価

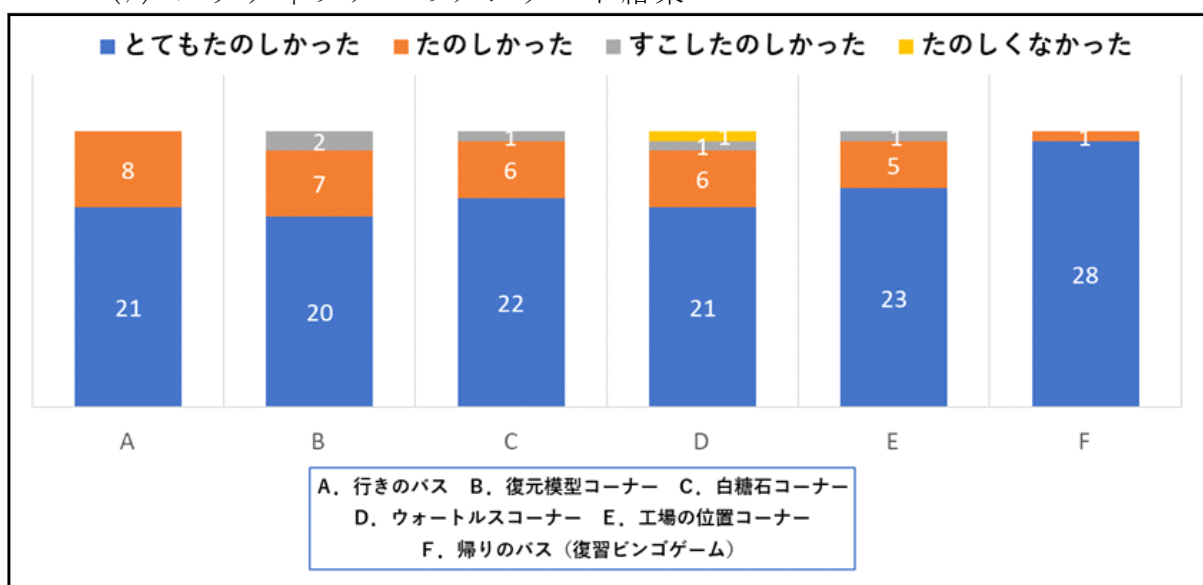
### (1) 課題解決の状況

本事業の主な目的として、「地域との連携」、「地域の観光資源の活性化」及び「地域に貢献できる人材の育成」があげられる。そこで本校の場合、瀬戸内町が保有する近代遺跡をどのように活用できるかを、課題として設定した。また、普通科である本校の特色を出すべく、地域活性化と同時に学術的なアプローチも重視し、町の埋蔵文化財センター、教育委員会、鹿児島大学との連携を図った。具体的には、昨年度まで行っていた白糖工場跡の活用についての研究を生かした、小学生向けのスタディツアー開催を到達点として様々な取組を行った。特に、歴史的背景をしっかりと踏まえ、かつ楽しませることのできる高校生ガイドの育成にこだわり、8月のスターターイベントで白糖そのものについてレクチャーし、12月のスタディツアーで深い学習ができるよう、段階的に取り組んだ。

### (2) 評価

#### ア 地域の活性化，課題解決

##### (ア) スタディツアーのアンケート結果



ツアー全体に対する満足度は非常に高かったと思われる。また、保護者からは、高校生が、分かりやすい切り口で郷土の文化遺産をについてレクチャーしたことに対し、驚きと感動があったとの感想を頂いた。久慈集落の皆さんもこのイベントを大いに喜んで、協力を頂いた。

### (イ) 評価

スタディツアーの参加者からは、高校生の独自企画による小学生へのアプローチであることに対して、驚きと感動の声が上がり、次年度も高校生によるスタディイベントを期待する声が多く上がった。

また、鹿児島大学が、高校生による地域活性化の好事例として視察に訪れた。町の教育委員会からは、高校生のキャリア教育・小学生の郷土教育・着地型観光商品を融合させたロールモデルとして高い評価を頂くことができた。

#### イ 人材育成

古仁屋高校は、地域では「最高学府」に位置づけられ、大学入試を目指す生徒もいる。しかし、それだけでなく、「最高学府」に相応しい研究活動に取り組み、それをキャリアアップにつなげられるような人材を育成したいというのが、本プロジェクトの元である。そして、地域住民にもほとんど知られていない白糖工場跡の存在を、本校生がインターンシップの中で知り、研究とともに地域貢献活動にもつなげようとしたことから、このプロジェクトは動き出した。研究グループのメンバーの中からは、埋蔵文化財センターや大学といった研究機関と関わり、白糖工場そのものの研究を深める中で、研究活動のもつ奥深さを感じ取り、学術研究に関する進路を志向する生徒も現れた。また、出前授業やスタディツアーを通じて、郷土で同じ思いをもつ方々と関わる中で、地域創生系の進路を志向する生徒も能われた。このように、実践的な活動を通して、自己のキャリアについて主体的に考える契機を得る生徒が現れたことは、本プロジェクトが目標を十分達成したことを示しているのではないだろうか。

## 6 今後の課題

スタディノートの難易度調査結果



今年度、「スタディキャリアノート」の開発に関しては、スタディツアーに利用するスタディノートという形で終わった。小学校低学年の子供が使用することを見越して製作したが、やや難しめに感じられたようである。今後、研究を重ねる中で、少しずつレベルの高いものにして行きたいと思う。

スタディツアーのようなイベントを、普通科の教育課程下で毎年実施するのは困難である。今後は、「高校生ガイド」として、地域の教育イベントに「出張」できる人材の育成を目指すなどの、持続可能な形を模索していきたい。今年の実組は、そのスタートダッシュとなったと考えたい。

## 7 協働先一覧

No.	協働先	所在地	主な内容
(1)	瀬戸内町教育委員会	瀬戸内町	研修講座等
(2)	瀬戸内町埋蔵文化財センター	瀬戸内町	研修講座等
(3)	瀬戸内町社会教育課	瀬戸内町	スタディツアー等
(4)	瀬戸内町食生活改善推進員連絡協議会	瀬戸内町	研修講座等
(5)	奄美せとうち観光協会	瀬戸内町	研修講座等
(6)	瀬戸内町地域おこし協力隊	瀬戸内町	スタディツアー等
(7)	大城もち屋	瀬戸内町	商品開発講座
(8)	鹿児島大学	鹿児島市	ワークショップ
(9)	瀬戸内町立篠川小中学校	瀬戸内町	出前授業
(10)	株式会社 宙の駅	鹿児島市	研修講座等

### 地域資源の活用方法など学ぶ

#### 地域創生 人材育成PJ 講演やワークショップ開催

古仁屋高校



瀬戸内町の県立古仁屋高校(重吉和久校長、生徒97人)で8日、地域創生人材育成プロジェクトの講演会とワークショップがあった。生徒たちは地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学び、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

プロジェクトは県教委の事業で、高校が地域資源の歴史や地域創生につながる実践的な取り組みをすることで、イベント企画について意見を述べ、準備を進める。

講演会では、地域資源の活用方法について、講師が「地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学び、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。」と話した。

ワークショップでは、生徒たちがグループで話し合い、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を話し合った。

古仁屋高校は、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学ぶ、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

### クイズラリーが人気

#### 砂糖の歴史知るイベント開催

古仁屋高校



県立古仁屋高校(重吉和久校長)の生徒が、砂糖の歴史を知るイベントに参加した。クイズラリーが人気で、多くの生徒が参加した。

古仁屋高校は、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学ぶ、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

クイズラリーは、砂糖の歴史に関する問題が出題された。生徒たちは、積極的に答えを出し、楽しんでいた。

イベントは、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学ぶ、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

令和元年7月10日 南海日日新聞

令和元年8月4日 南海日日新聞

### 白糖工場研究で出前授業

#### 遺跡活用で地域振興も

古仁屋高校



瀬戸内町の瀬川小中(18)を講師とした出前授業が行われた。白糖工場の歴史や、遺跡活用による地域振興について話した。

古仁屋高校は、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学ぶ、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

出前授業では、白糖工場の歴史や、遺跡活用による地域振興について話した。生徒たちは、積極的に質問を投げかけ、楽しんでいた。

古仁屋高校は、地域の歴史・文化資源の研究や活用方法を学ぶ、来月開催予定のイベントについて計画を話し合った。

令和元年8月2日 南海日日新聞



